

板東文部科学審議官による土曜授業（高校で学ぶ意義）



【高校1年生を対象に土曜授業を行う】

板東文部科学審議官は、パワーポイントを使いながら「高校で学ぶ意義」について授業を行い、現代の日本の課題（少子高齢化等）を踏まえ、「1人1人の役割が重要になってくる」ことを説明した上で、「現代の高校生は、学力が高いにもかかわらず、自分に自身がない高校生が多い」ことを説明し、「自分に自信を持つため、自分の強みを見つけることを高校生活で学んでほしい」と生徒たちに語りかけました。授業の後、各グループに分かれて、自分たちの学年のキャッチコピーについて、作成・発表しました。その後、板東文部科学審議官からは、「キャッチコピーを目標に高校生活を送ってほしいこと、これからは、留学などを活用して自分たちの文化に留まるだけでなく、様々な文化にも触れてほしい」と高校生を激励しました。

平成26年6月21日(土)、板東文部科学審議官が島根県海士町の島根県立隠岐島前高等学校で高校1年生約60人を対象に、「高校で学ぶ意義」をテーマとした土曜授業を行いました。

文部科学省では、官民の連携による土曜日教育ボランティア運動など、「土曜日の教育活動推進プロジェクト」を推進しており、この学習会はその一環として行われたものです。これまで、下村大臣などが小学校や中学校で土曜学習会を実施しています。

今回行われた土曜授業は、自分たちの目指す学年の方向性についての授業が行われました。



【自分に自信を持ってほしいと訴える板東文部科学審議官】



【熱心に聞き入る高校生】



【グループ活動に対して耳を傾ける】

生徒からは「日本人は他の国の人たちと比べて、向上心がなく残念でした。自分は、留学したいと考えているので、これからの高校生活を通じて自分に自信を持ちたい」などと感想が寄せられていました。

授業終了後、板東文部科学審議官と、島前高校、海士町、島根大学関係者が参加して、少子高齢化・過疎地域における地域活性化について、意見交換を行いました。若い人が海士町に入ってくるしかけとして、島前高校が実施している「高校魅力化プロジェクト」のさらなる推進や島根大学と島前高校の連携など、これからの地域活性化の新しいモデルの方向性について活発な意見交換が行われました。板東文部科学審議官からは、「地域活性化を促進する上で、学校・大学と地域の連携はますます必要になってくるので、より一層連携を強化してほしい」と連携の重要性について発言されました。

【参考】島根県立隠岐島前高等学校HP <http://www.dozen.ed.jp/>

土曜日の教育活動推進プロジェクト

地域や企業の協力を得て、子供たちの土曜日の豊かな教育環境の実現に向けた取組を推進するプロジェクト（平成25年11月発表）。

- ①設置者の判断により、土曜授業を行うことが可能であることをより明確化するため、学校教育法施行規則を一部改正
- ②官民連携により、多様な賛同企業・団体の協力による応援団を組織して、出前授業等を行っていく「土曜日教育 ボランティア運動」を推進
- ③学校における質の高い土曜授業の推進のための「土曜授業推進事業」や、地域社会や産業界と連携した土曜日の教育活動の充実のための「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を平成26年度より新たに実施。

- 土曜日の教育活動推進プロジェクトについて → http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doyou/index.htm
- 学校・家庭・地域の連携について → <http://manabi-mirai.mext.go.jp/>

